

平成 30 年度 第 3 回 学校協議会 議事録

0. 図書ホール等見学

1. 学校長挨拶

来年度 40 周年。記念事業の一環で図書室を多機能化する。新学習指導要領にいうアクティブ・ラーニングに対応できる環境になる。また、エアコンが効いたところで学年単位の集会が可能となる。本会では平成 30 年度の評価と平成 31 年度の計画の承認を頂きたい。

2. 今年度の達成状況

1 学年、2 学年、3 学年、教務、進路、生徒会、生徒指導、総務、保健の順に報告。

3. 学校教育自己診断結果

概況：全設問で肯定値が過半数を超え、年次進行で増加している。また「学校へ行くのが楽しい」6%増、「授業わかりやすい」5%増、「授業以外に楽しみがある」7%増。文化祭、球技大会、生徒会活動などの充実が牽引。今後も増加を期待する。「成績はテストの点だけでなく…総合評価している」82% (2%減)、「成績不振に対して…補習による学力向上」81% (3%減)。前年度比では微減だが肯定値が高い。

今後の課題。「いじめに真剣に対応してくれている」3割が否定値。SNS の件では懲戒こそ無かったが、学校が掴めてない実態があるかもしれない。「指導には納得ができる」5%減。「私語を注意するなど指導がなされている」4%減。学校を肯定的に捉えている結果と合わせ総合的に判断すると、生徒は丁寧な指導を求めていると推測する。図書室利用についての否定値は来年度に改善を期待したい。

3 年生：「行事は皆が楽しく行える工夫がされている」79%→69%、「担任以外にも悩みを聞いてくれる先生がいる」79%→70%、「指導には納得できる」86%→73%、「…悩みごとや健康について気配りしてくれている」82%→73%。減ってはいるものの、例年に比べれば肯定値は少くない。

授業について「授業わかりやすい」73→75%で微増。教員に対する期待値が高まっている。

2 年生：「教え方に様々な工夫している」9%増、「学校楽しい」6%増、「行事楽しく行える工夫ある」6%増。「行事に積極的に取り組むことができる」6%増。「授業以外で楽しみにしている活動ある」9%増。学校生活を肯定的に捉えている生徒が増加している。生徒主体のレク企画等の取組が活きた。

1 年生：「学校楽しい」67% (12%増)、「授業以外に楽しみある」50% (14%増)。1 年生の肯定値がどの学年よりも高いのは、例年に無いこと。スケジュール手帳導入、非言語コミュニケーションの重視、日常のコミュニケーション力向上、ユニバーサル・エデュケーションの取組などの結果が出ている。

保護者：アンケート回収率が 47%→42%へ減少。担任が回等への協力を呼びかける熱意が足りなかったかもしれない。「個人情報を守られている」92%。書類の扱いやプライバシーに配慮した生徒指導が賛同を得た結果か。「家庭で将来の生き方話しあう」9割肯定。大変心強い。

「授業はわかりやすいようだ」3割が否定。更なる研鑽が必要だが、学校に対する関心の現われ。「行事に参加した事がある」毎年低迷。何か良い案は無いものか。「HP に満足している」肯定 9%減。今年度は災害が多く、HP を確認する機会が増えたことが要因と考えられる。災害時の緊急連絡網の在り方が取りざたされている。

4. 協議

協議員：「楽しい」「授業分かりやすい」で肯定値増。教員の努力が評価できる。地域住民としても感謝。気になるのはいじめの対応。否定値が 3 割は多い。保護者の値も同じような数字。アンテナをはって気配り、情報連

携、安心できる学校づくりにつながるようお願いしたい。

教員：いじめに対する対応への否定値は2年生が多いと思う。いじめの訴えがあっても、直ぐに対応しないことがある。本人がいじめと思えばいじめだが、第三者からの聴取も含めて客観視する必要がある。「あの子、どうにかして」と他者から言われていた生徒が在籍異動すると、かつて「どうにかして」と訴えていた生徒が「どうにかして」と言われる存在に変貌する。当然、深刻なトラブルについては細心の注意を払いながら対処しているが、人間関係のトラブルは、ある程度自分で解決して人間関係が再生できるように注視したい。人間関係不安で修学旅行参加辞退者が少なからずいる現状で、生きる力として、コミュニケーション力を身に付けさせたい。3割の否定値が、どこまで「いじめ」か、を広い視野で見ようとしている。特に1年生での人間関係を起因とする転退学を減らすように「学校として」取り組んでいく必要がある。

教員：アメリカでは小1からいじめを見たら報告義務があると聞いた。日本の小学校では実現可能か？

協議員：考えてない。報告を強制することはない。集団作りを目的にした指導の中で、第三者の報告が必要であるときと、問題を複雑にするケースもある。

協議員：保護者の学校教育への参加について。報告にあったように、家庭教育と学校教育連携は必須という議論の中、PTA行事等は一部の人の参加になりがち。障がい者福祉施設でも似た傾向。ただ、福祉施設の場合「卒業」は無い。家族との付き合いが長く、連携を希薄にすることはできない。情報提供を細やかに、電話だけではなく顔を見ながら出来る機会を増やすようにしている。メンバーさんがしんどくなった時に、必ず家族の力が要る。家族との連携を大切にしていきたい。

協議員：大阪の子どもは、自己有用感が低い。小学校では、1年から6年へ年次進行で数値が下がる。「自分は必要ない」と思えば、居場所がなくなる。コミュニケーションも乏しくなり悪循環する。行事で主体的に取り組む生徒の姿が報告されていた。是非、諸活動を通し自己有用感を高めてほしい。ボランティア（以下Vo）活動などにも取り組んでみてはどうか。今年度は災害が多かった。学校としてVoの参加を把握しているか。また、どんな取組があるか。

教頭：市役所や市民団体からのVoを紹介し、参加した例は数件ある。報告にあった生徒会の取組の他、松原子ども探検隊などにも参加。

首席：福祉科の授業で災害Voを呼びかけた事はある。一部で反応はあったが実現はしなかった。

協議員：災害など大きなものでなくてもよい。小学校では全員、学テの時にアンケートをとる。発表会的なことはしていないが、近隣府立高校生に災害Voの経験を語ってもらった事はある。

教員：サッカー部は、長吉高校と連携して、小学生や福祉関係学校のサッカー大会の運営Vo。良い影響あった。

協議員：勤務先の介護施設クリスマス会に本校Vo部が参加。高校生と利用者さんとでコミュニケーションの時間をとった。利用者さんも「孫が来た」感覚で、「もう帰るの？」と名残惜しむ様子。例年に比べ参加者が増えた。将来介護職をめざす生徒もいるだろう。お互いに良い経験になったのでは。地域交流と言う意味でも有意義。授業の中でやってみてもよいのでは。施設としても地域連携を重視している。

教頭：授業の中では、幼稚園や小学校、老人ホームなどの交流は毎年行っている。それをVoと見るなら他にもある。継続したい。

教頭：PTAの行事参加促進について、どんな取組が考えられるか。もしヒントがあれば教えて欲しい。

協議員：小学校は運動会。3世代で来校。松原市では「フェスタ」が盛ん。30年ほどの歴史。地域教育協議会が主催。舞台発表、出店等。

首席：本校も、日程が合えば、書道部や軽音楽部が参加させてもらっている。

5. 平成30年度学校経営計画及び学校評価

6. 平成31年度学校経営計画

挙手により全員賛成、承認。